

## 気候変動の影響への対応方針について

### 1. 知床世界自然遺産地域における対応方針

< 「気候変動戦略」の開発 >

ユネスコ / IUCN 現地調査報告書

勧告 17 : ( a ) モニタリング計画の開発と、( b ) 知床世界遺産の価値に対する気候変動の影響を最小限にとどめるための順応的管理戦略とを含んだ知床の「気候変動戦略」を開発すること。

#### 第 32 回世界遺産委員会

i ) ( ) モニタリングプログラムと、( ) 知床世界遺産の価値に対する気候変動の影響を最小限にとどめるための順応的管理戦略とを含んだ知床の「気候変動戦略」を開発すること。

( 1 ) 気候変動の影響を把握するためのモニタリングの実施について

- ・必要なモニタリング項目の選定  
( 評価項目 : 気候変動の影響もしくは影響の予測を早期に把握できること )
- ・選定されたモニタリング及び調査の実施

( 2 ) 気候変動の影響を最小限にとどめるための適応策の検討について

- ・知床世界自然遺産地域における新たな適応策の検討
- ・エゾシカの密度操作、外来種の防除等の既存施策の位置付けの整理、実施内容の再検討等

### 2. 気候変動戦略とモニタリング計画の関係について

2012 年度から本格的な長期モニタリング体制への移行に向けて、科学委員会においてモニタリング計画の検討を進めている。気候変動の影響を把握するためのモニタリング項目についても、当該モニタリング計画に位置付けることが望ましい。そのため、まずは気候変動の影響を把握するためのモニタリング項目の選定を優先して実施し、その後、気候変動の適応策の本格的な検討を開始することが適当であると考えられる。

モニタリング計画は気候変動戦略とは別に作成することとし、気候変動戦略は適応策のみをとりまとめ、整理する。

### 3. 気候変動の影響を把握するためのモニタリング項目について

気候変動の影響を把握するため、気象観測を新規にモニタリング項目に追加することが適当であると考えられる。

高山植生や海獣類等のモニタリングは、既に長期的なモニタリング項目の候補として挙げられており、気候変動の影響の把握にも留意したモニタリング項目として、必要に応じて内容の見直しなどを検討する。また、流氷は遺産地域のクライテリアの重要な構成要素であるため、その動向の把握のためのモニタリングの実施について引き続き検討していく。

基本的な気温、降水量などのデータは気象庁のホームページから入手可能であるが、高標高域や知床岬等での観測はなされていない。生態系や生物の変化などを評価・活用するための基礎的なデータとして、高標高域や知床岬等での気温、積雪深等のモニタリングを実施することが適当であると考えられる。

#### 気候変動の影響を把握するためのモニタリング項目

【気象観測】 新規

【衛星リモートセンシングによる水温・クロロフィル a の観測】

【海洋観測ブイによる水温の定点観測】

【エゾシカの採食圧の把握に関する広域植生調査】

【淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況】

【アザラシの生息状況の調査】

【航空機による海水分布状況観測】

【トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性】